



スピーカー: カリブベク・クユコフ / ATOMプロジェクト、カザフスタン

アーティスト、ATOMプロジェクト名誉大使

7月18日1968年にセミパラチンスク核実験場から100km離れた場所にあるイエギンディブラック村に生まれる。

ご両親は核実験の生存者。父は運転手として、何回も核実験が行われた地区を通い、母は大きな光の後、夜のように暗くなった場面を目撃。

クユコフ氏が生まれる前に両親は2人の子どもを授かったが、2人とも1歳まで生きることはなかった。クユコフ氏が生まれた際、母親は生まれてきたクユコフ氏に3日間近づくことができないほどの大きなショックを受ける。医者は注射を父に薦めたが、父親はそれを拒絶した。

1989年にセミパラチンスクで反核運動を開始。クユコフ氏の絵画は日本、米国、ドイツ、トルコで展示される。2013年よりATOMプロジェクトの名誉大使。

参加者のみなさん、こんにちは。ご参加いただき、ありがとうございます。主催者のみなさんにも感謝申し上げます。核実験は現代の問題であり、核兵器を反対する運動に対しては無関心では無い方もたくさんいると思います。

自己紹介をさせてください。カリブベク・クユコフと申します。1968年にイエギンディブラック村で生まれました。私の村はセミパラチンスクの核実験場から100キロの場所に位置しています。ご存知の通り、カザフスタンではセミパラチンスクの実験場で40年の間、多くの核実験が行われました。公式に核実験被害者とされている人の数は200万人ほどですが、実際にはもっとたくさんいます。

日本にいるたくさんの私の仲間にも挨拶申し上げます。日本には何度も行ったことがあります。広島や長崎の被爆者とも知り合いました。1990年に広島を訪問しました。8月6日に広島と長崎の原爆投下の40周年を記念した集会に参加しました。カザフスタンと日本の友好関係は他の国の参考にもなる良い例だと思います。日本とカザフスタンは核兵器によって苦しめられてきた国です。

本日参加されているみなさんの健康を祈ります。核兵器との闘いを続けるためには健康であることが必要です。現在私はATOMプロジェクトの名誉大使を務めています。ATOMプロジェクトのウェブサイトにもオンライン署名があります。核兵器に反対する意思表明をみなさんもすることができます。

最後に、私たちが日頃から連携しており、このフォーラムの主催者であるICANにも感謝申し上げます。以前、ウィーンと、トルコのアンカラと一緒に開催した会合を覚えています。とてもいい会合にすることができて、とても感謝しております。私はノーベル平和賞の授賞式にも参加しました。賞を受け取るに相応しい団体です。これからも仲間を増やしていきましょう。仲間が多いほど強い運動になります。

繰り返しになりますが、みなさんありがとうございます。"

みなさんが健康であり続けますように。

そして私たちの共通目標が達成されますように。



おことわり

この文章の責任は証言動画の文字起こしを行ったピースポートにあります。オリジナルの証言と完全に一致するとは限りません。オリジナルの証言は2021年12月3日(日本時間)に行われた世界核被害者フォーラム2021にてオンラインで上映されました。このフォーラムはピースポート主催、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)協力で開催され、世界5大陸から30名を超える参加者がそれぞれの核の被害を1000人を超える視聴者に訴えました。証言やパネルディスカッションの様子はYouTubeチャンネルまたはこちらのウェブサイトより閲覧可能です。<https://nuclearsurvivors.org>